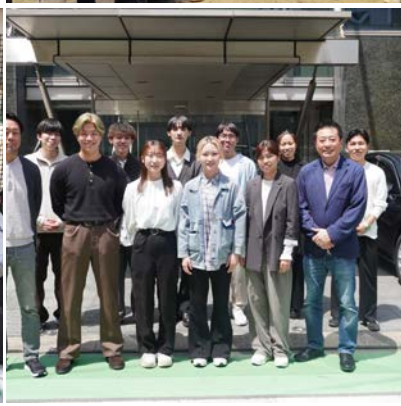


令和8年度 事業計画書

【自 令和8年4月1日 至 令和9年3月31日】

公益財団法人 石井育英会

Ishii Scholarship Foundation
for the future



令和8年度 事業計画書

「10期を越えて — 安定と挑戦が共存する新たなフェーズへ」

石井育英会は、設立以来10年にわたり、奨学金給付事業を中心とした公益活動を継続してまいりました。令和7年度までの取組みにより、DXの導入と定着、奨学金選考・運営の効率化、学生同士の交流促進、寄附基盤の強化など、財団運営の基礎は着実に整備されてきました。

また、これまでに多くの奨学生を社会へ送り出し、医療、保育、ビジネス、専門職、学芸など、さまざまな分野において活躍する卒業生を輩出してきました。経済的な理由により大学進学が困難であった若者が、学びの機会を得て社会へ羽ばたき、それぞれの立場から社会に貢献していることは、石井育英会の活動が社会への還元を生み出している証であると考えています。

令和8年度は、10期目という節目を越え、公益財団法人 石井育英会が次の段階へと移行する初年度と位置づけます。

これまでの成果を「点」ではなく「線」としてつなぎ、

安定した財団運営とデジタル活用による効率的な運営

公平性・透明性・説明責任の高度化

卒業生・現役奨学生・支援者が循環的に関わる仕組みを実装していく

令和8年度 重要ミッション

① 財団運営の安定（基盤の完成）

10期目を迎えた財団として、これまで培ってきた経験と知見を体系化するとともに、AI等のデジタル技術を適切に活用し、持続可能で再現性のある運営体制を確立します。応募者数の増加や、卒業生・寄附者など関係者の拡大に対しても、現在の運営体制を基盤としながら、業務負荷を過度に増やすことなく対応できる仕組みを整えます。

- 事務局業務フローの整理と定着、ならびにAI活用を前提とした業務効率化
- 理事体制の強化と役割の明確化
- 年間業務・審査・研修・対外対応の標準化と一部プロセスの自動化
- ガバナンス意識の共有と、データに基づく運営品質とセキュリティ向上

これにより、外部環境や業務量の変化に左右されにくく、安定性と柔軟性を兼ね備えた公益法人運営を実現します。

あわせて令和8年度は、Google Workspace for Nonprofits（Gemini搭載）を活用し、事務局業務のみならず、奨学生に対してもデジタル環境を提供する新たな基盤整備に着手いたします。これにより、奨学金による「経済的支援」に加え、学習・思考・コミュニケーションを支える「学びの環境」そのものを提供する財団運営へと進化させていきます。

② 10期目としてのチャレンジ（進化と拡張）

(1) 経済的安定と寄附・支援の拡大

持続可能な奨学金給付を実現するため、財政基盤のさらなる強化に取り組みます。

- 寄附・支援の継続的増加に向けた仕組みづくり
- 個人・法人支援者との関係性深化
- 税額控除制度・遺産寄附等の理解促進
- 10期を迎えた財団としてのメッセージ発信強化

令和8年度 重要ミッション

「支援したいと思える財団」から「継続して関わりたくなる財団」への進化を目指します。令和8年度は、デジタル活用の対象を事務局業務に留めず、奨学生本人の学びや成長を支える領域へと段階的に拡張いたします。Google Workspace for Nonprofitsにより提供される生成AI（Gemini）やドキュメント・コミュニケーションツールを活用し、奨学生が思考力・表現力・情報整理力を育む環境づくりを検証・実装していきます。

(2) デジタル化の定着と高度化

令和7年度までに導入・定着したDXを、実務・判断・改善に生きる段階へと引き上げます。

- 学生・卒業生・支援者データの活用促進
- 奨学金審査・運営プロセスの仕組み化と改善
- オンライン申込（応募）への着手・検証
- 運営データを活用した中長期的な改善サイクルの構築

デジタル化を「効率化の手段」から「財団運営の基盤」へと進化させます。

③ 新たなフェーズへの対応

(1) 卒業生と現役奨学生の関係性の進化

奨学生同士の関係性は年々強化され、卒業生が後輩支援に関わる動きも広がっています。令和8年度は、これを財団の価値として明確に位置づけます。

- 卒業生を含めた緩やかな支援・関与の仕組みづくり
- 世代を越えたつながりの可視化と仕組化。
- 石井育英会ならではの「循環する奨学金モデル」の構想

奨学金給付と人材の育成を起点とした、人と人のつながりが続く財団を目指します。

令和8年度 重要ミッション

(2) 全国的な育英会動向を踏まえた視点
少子化、物価上昇、学生生活費の増大などを背景に、奨学金財団にはこれまで以上に役割の再定義が求められています。

- 給付型奨学金の社会的意義の再整理
- 公平性・透明性・説明責任のさらなる強化
- 「資金支援+機会・関係性」を提供する財団像の確立

石井育英会としての存在意義を、内外に明確に発信してまいります。



各事業の展望

1. 奨学金給付事業

設立から10期目を迎えた本年度は、これまでの運営実績と蓄積された審査経験を基盤に、安定性と柔軟性を兼ね備えた奨学金給付事業の運営を行います。近年の物価上昇や生活費の増加、修学環境の多様化といった社会情勢を踏まえ、経済的理由により学びの機会が制約されることのないよう、給付型奨学金の役割を一層重視してまいります。

- 応募数の増加や地域的広がりを見据えた、審査体制の安定的な運用
- 学業成績に、将来ビジョンや社会への関心等を含めた評価基準の継続的な見直し
- 審査基準および選考プロセスの透明性確保と、説明責任の強化
- デジタル技術の活用による申請・審査・管理業務の負荷軽減と運営効率の向上

これらを通じて、公平性と納得感を備えた奨学生選考を行い、支援を受ける学生のみならず、支援者からも信頼される奨学金制度を維持・発展させます。また本年度は、新たな取組みとして、石井育英会に所属する奨学生に対し、Google Workspace（無償提供）のアカウントを段階的に付与することを検討・実施致して参ります。

この取組では、通常は有料で利用される生成AI（Gemini）や学習・コミュニケーションツールを、奨学生全員が経済的負担なく活用できる環境を整えます。本取組みは、単なるツール提供ではなく、奨学生が自ら考え、整理し、表現する力を育むことを目的とし、財団として一定の運用ルールのもとで段階的に活用を進めることで、石井育英会の奨学金は、金銭的支援に加え、次世代に必要な学習環境・思考環境を提供する新たな価値を持つ奨学金モデルへと進化することを目指して参ります。

本年度採用予定奨学生：10名程度

（応募条件は前年度基準を踏まえ、社会状況等を考慮の上、必要に応じて精査）

2. 奨学生研修・交流事業

奨学金給付に加え、奨学生一人ひとりが将来を主体的に考え、社会と接続していく力を育むことは、育英会として重要な役割の一つです。10期目を迎える本年度は、これまで実施してきた研修・交流の取組みを発展させ、学びと人のつながりが循環する場づくりを目指します。

各事業の展望

- 財団研修およびキャンプ研修の内容を、社会情勢や学生の関心に即したテーマ設定
- キャリア形成、社会理解、価値観の多様性への気づきを促すプログラムの設計
- 卒業生の経験や視点を活かした関与の機会を設け、世代を越えた学びの場を形成

これにより、奨学生が互いに刺激を受けながら視野を広げ、自らの将来像を描き、社会の一員として主体的に歩み出す力を育むことを目指します。

結びに

令和8年度は、石井育英会にとって「10年続いた財団」から「次の10年を設計する財団」へと移行する重要な一年です。安定と挑戦を両立させながら、未来を担う若者を支える基盤を、関係者の皆様と共に築いてまいります。

資金調達及び設備投資の見込みについて

- (1) 資金調達の見込みについて
収益については、個人・法人からの寄附が見込まれること及び指定正味財産の一般正味財産への振り替えにより十分に対応できる予定であるため、当期中における借入の予定はありません。
- (2) 設備投資の見込みについて
当期における重要な設備投資の予定はありません。

以上

令和8年度 年間スケジュール

令和8年度（2026年度） 年間スケジュール（仮）							
月	日	曜日	時間	育英会	役員会議	研修	備考
4	5	日		2025年度後期成績表 提出			
	14	火		大学入学証明書等 提出期限			三和ビル
	25	土		10期生オリエンテーション			10期生・在学生代表
5	初旬	-		奨学生募集活動 始動			
	7-29	-		奨学生個別面談			オンライン
	7-21	-			監査期間（事業報告・決算報告）		
	22	金	10:00-11:00		（仮）定例理事会（事業報告・決算報告）		
6	13	土		認定式			三和ビル
	13	土		懇親会			三和ビル
	15	月		給付 支払決裁願 回覧			
	19	金	10:00-11:00		（仮）定時評議員会（事業報告・決算報告）		
7	3	金		前期奨学金給付		<毎月> 木嶋会	
	上旬			各高校へ資料発送			
8	15	土		前期活動報告書 告知			
9	15	火		前期活動報告書 提出締切		<2カ月毎> MG研修	
	24	木		2026年度前期成績表 提出			
10	1-31	-		奨学生募集期間（高校生）		<3カ月毎> 学生木嶋会	11期生応募
	15	木		給付 支払決裁願 回覧			
	17	土		奨学生 活動報告会			三和ビル
	未定			財団発起研修		<年1回> 財団 発起研修	三和ビル
11	5	木		後期奨学金給付			
	7	土		キャンプ研修			能古島
	21	土		石井育英会10周年式典			八仙閣
	5日頃	-		一次書類選考			
	15日頃	-		二次書類選考			
12	未定	-		忘年会			
1	上旬	-		三和グループ 新年会			
	下旬	-		面接選考			対面・オンライン
	下旬	-		面接選考 合否発送			
2	15	月		後期活動報告書 告知			
3	6	土		卒業生 送別会			三和ビル
	15	月		後期活動報告書 提出締切			
	17	水			（仮）定例理事会（事業計画・収支予算）		

令和8年度 収支予算書

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

法人名：公益財団法人石井育英会

事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	本年度予算	前年度予算	比較増減
I 一般正味財産増減の部			
(1) 経常増減の部			
① 経常収益	28,405,000	23,915,000	4,490,000
特定資産運用益	5,800,000	3,500,000	2,300,000
特定資産受取配当金	1,000,000	1,000,000	0
特定資産受取利息	4,800,000	2,500,000	2,300,000
受取寄付金	22,455,000	20,395,000	2,060,000
受取寄付金	5,000,000	4,500,000	500,000
指定正味財産振替額	17,455,000	15,895,000	1,560,000
雑収益	150,000	20,000	130,000
受取利息	150,000	20,000	130,000
経常収益計	28,405,000	23,915,000	4,490,000
② 経常費用	28,405,000	23,915,000	4,490,000
事業費	18,790,000	18,890,000	-100,000
旅費交通費	130,000	120,000	10,000
通信運搬費	200,000	250,000	-50,000
広告費	0	0	0
消耗品費	40,000	40,000	0
支払奨学金	18,000,000	18,000,000	0
奨学生懇親会費	200,000	300,000	-100,000
面談会議費	180,000	120,000	60,000
研修費	10,000	30,000	-20,000
委託費	0	0	0
賃借料	0	0	0
租税公課	0	0	0
雑費	30,000	30,000	0
管理費	9,615,000	5,025,000	4,590,000
旅費交通費	20,000	20,000	0
広告費	0	0	0
通信運搬費	200,000	220,000	-20,000
減価償却費	0	0	0
消耗品費	15,000	10,000	5,000
面談会議費	0	0	0
委託費	7,920,000	4,200,000	3,720,000
賃借料	0	105,000	-105,000
修繕費	250,000	250,000	0
租税公課	10,000	10,000	0
給与手当	0	0	0
雑費	1,200,000	210,000	990,000
経常費用計	28,405,000	23,915,000	4,490,000
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
(2) 経常外増減の部			
① 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
② 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	20,000,000	500,000	19,500,000
一般正味財産への振替額	-17,455,000	-15,895,000	-1,560,000
当期指定正味財産増減額	2,545,000	-15,395,000	17,940,000
指定正味財産期首残高	564,710,000	583,100,000	-18,390,000
指定正味財産期末残高	567,255,000	567,705,000	-450,000
III 正味財産期末残高	567,255,000	567,705,000	-450,000

令和8年度 収支予算書内訳表

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

法人名：公益財団法人石井育英会

事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	公 1	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
(1) 経常増減の部			
① 経常収益	18,790,000	9,615,000	28,405,000
特定資産運用益	5,800,000	0	5,800,000
特定資産受取配当金	1,000,000	0	1,000,000
特定資産受取利息	4,800,000	0	4,800,000
受取寄付金	12,990,000	9,465,000	22,455,000
受取寄付金	0	5,000,000	5,000,000
指定正味財産振替額	12,990,000	4,465,000	17,455,000
雑収益	0	150,000	150,000
受取利息	0	150,000	150,000
経常収益計	18,790,000	9,615,000	28,405,000
② 経常費用	18,790,000	9,615,000	28,405,000
事業費	18,790,000	0	18,790,000
旅費交通費	130,000	0	130,000
通信運搬費	200,000	0	200,000
広告費	0	0	0
消耗品費	40,000	0	40,000
支払奨学金	18,000,000	0	18,000,000
奨学生懇親会費	200,000	0	200,000
面談会議費	180,000	0	180,000
研修費	10,000	0	10,000
委託費	0	0	0
賃借料	0	0	0
租税公課	0	0	0
雑費	30,000	0	30,000
管理費	0	9,615,000	9,615,000
旅費交通費	0	20,000	20,000
広告費	0	0	0
通信運搬費	0	200,000	200,000
減価償却費	0	0	0
消耗品費	0	15,000	15,000
面談会議費	0	0	0
委託費	0	7,920,000	7,920,000
賃借料	0	0	0
修繕費	0	250,000	250,000
租税公課	0	10,000	10,000
給与手当	0	0	0
雑費	0	1,200,000	1,200,000
経常費用計	18,790,000	9,615,000	28,405,000
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
(2) 経常外増減の部			
① 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
② 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	10,000,000	10,000,000	20,000,000
一般正味財産への振替額	-12,990,000	-4,465,000	-17,455,000
当期指定正味財産増減額	-2,990,000	5,535,000	2,545,000
指定正味財産期首残高	563,530,000	1,180,000	564,710,000
指定正味財産期末残高	560,540,000	6,715,000	567,255,000
III 正味財産期末残高	560,540,000	6,715,000	567,255,000